



北海道医療センターニュース

YAMANOTE

病棟のイベント



夏の一大イベントである花火大会が開催されました。前日までの天気予報では雨マークがちらほら…。雨が降らないかドキドキしながら迎えた花火大会当日、治療を頑張っている子どもたちの味方をしてくれたのか、午後には太陽が顔を出して無事に花火を打ち上げることができました。子どもたちは大喜び！親御さんやご兄弟、近隣にお住いの方もたくさん花火を見に来てくださり、大盛況のうちに終わることができました。



アニメ「ワンピース」をテーマにした夏祭りを開催しました。デイルームを会場に、千本引き、やミートイートゲームなど楽しい企画を用意しました。ミートイートゲームは患者さんの声から実現したもので「ワンピースといえば肉」というイメージから着想を得た、麦わらの一味の口に肉を飛ばして入れるゲームです。折り紙でキャラクターやお肉を制作しました。病院職員も制作をサポートし、参加者も制作メンバーも忘れられない思い出となりました。



夏祭りでは射的やフォトスポット、食べ物はたこ焼きやかき氷もあり、患者さんやご家族、スタッフみんなで夏を満喫しました。



重症心身障がい児者病棟では「トロピカル」をテーマに夏祭りを開催し、海を感じる映像や香り・音の演出で、季節感と癒しのひとときを提供しました。

むせ・飲み込みづらさに悩む方へ — 嚥下検査で見える安心への道 —



食事の時にむせてしまうことはありませんか？
飲み込みにくさを感じたことはありませんか？



こうした症状の裏には、嚥下(えんげ＝飲み込み)の機能低下が隠れていることがあります。安全に食べたり飲んだりするためには原因をきちんと調べることが大切です。そのために行なわれる代表的な検査が嚥下造影検査と嚥下内視鏡検査です。

嚥下造影検査は、レントゲンを使って食べ物や飲み物の流れを映像で確認する検査です。食べ物を実際に飲み込んでいただき、口から食道にかけての動きを観察します。誤嚥（食べ物が気管に入ってしまうこと）の有無や、どの段階で飲み込みに問題があるかを詳しく調べられます。

嚥下内視鏡検査は、鼻から細い内視鏡を入れて、のどの動きを直接見る検査です。色のついた水や食べ物を少しずつ口にさせていただき、のどに食べ物が残らないか、気管や肺に入っていないかを確認します。脳卒中や神経難病、肺炎、がんなどの影響で「むせる」「食べ物がのどにつかえる」「飲み込みづらい」といった症状がある方に行われます。安全に食事をとるためには、客観的評価で正確な治療方針を立てる上で、欠かせない検査になります。



当院では、医師・看護師・管理栄養士・リハビリスタッフが連携し対応しています。医師による嚥下評価を実施し、結果は主治医やチームで共有しながら治療方針を検討しています。定期的に評価を繰り返すことで、回復状況を確認しながら安心して食事を続けられるよう支援しています。

また、委員会や勉強会を通して知識を深め、病棟では入院時に看護師が嚥下評価を行い、嚥下障害を持つ方が入院初期から適切な対応を受けられる環境を実現しています。単なる検査ではなく、「安全に食べる喜びを守るための大切な一歩」です。むせや飲み込みに不安がある方はぜひご相談ください。

(文：言語聴覚士 葛木)

第10回

いきいき 三角山 フェスタ

令和7年

9/27 土

開催
しました!!



楽しいコーナーが盛りだくさんで、大盛り上がりでした！
ご来場いただきありがとうございました